

市長マニフェストの医療と健康のまちづくりについて

質問(高崎和夫議員) 国際医療福祉大学、地域医療機関と連携をした医療と健康のまちづくりについて、これまでの取り組みと今後の具体的な施策について伺います。
答弁(市長) 国際医療福祉大学と連携した医療と健康のまちづくりにつきましては、医療、介護、福祉等、多方面にわたり連携した活動が行われております。

最近の活動といたしましては、市と大学の共催により、東京電力福島第一原子力発電所事故に伴う放射線の人体への影響に

ついての講演会開催や楽しみながら医療福祉の世界を体験する幸齢者スクールの開催など、こうしたさまざまな活動を踏まえ、平成二十一年十一月には相互に連携協力をし、地域社会の形成、発展を目的に連携協定を締結したところでございます。

また、地域医療機関との連携につきまして、一次、二次救急医療で対応できない重篤な疾患や多発、外傷に対する医療は、大田原赤十字病院が救急救命センターとして三次医療を担うことにより、



黒羽幼稚園の表土除去作業

校庭等の汚染表土除去について

質問(小池清議員) 校庭等の放射能汚染表土除去の実施状況について伺います。

答弁(市長) 大田原市内の校庭等の放射線量は、国が定める校庭等の表土除去の基準である毎時一マイクロシーベルトに達していないため、安全であるとの基本的な考えはありますが、不安を感じている保護者の方も多いことからPTAや保護者会などが子供たちの安全、安心のために自主的に表土除去を行うおうとするときは、市が重機などの経費を負担する

こととしたものであります。

表土除去の届け出は、黒羽幼稚園から提出された一件であり、八月二十四日に協力業者が八百五十八平方メートルの園庭敷地をブラシで表土をはく機械である「スライパー」を用いた方法で表土の除去を行いました。諸経費を含めて重機等にかかる費用が二十二万六千八百円、重機運搬費用が五万七千六百円でありました。

その結果、除去前の毎時0.3マイクロシーベルトが除去後は毎時0.17マイクロシーベルトに

なっております。
黒羽幼稚園では、重機等で表土を除去する前に、大田原市から貸与された簡易放射線線量測定器を利用して、園庭内の放射線量の高い場所を保護者や職員がスコップやならし棒などを利用して、表土の除去を行っており、深いところでは十五センチメートルも表土除去を行ったところもあるということでありました。保護者の皆様が子供たちの安全のために率先して熱心に作業を行っていただき、市といたしましても、保護者の皆様方に感謝をしているところでございます。

圏域内の救急医療体制が構築されております。

今後の方策といたしましては、現状の活動を着実に推進するとともに、地域における介護予防知識の高揚を図りながら、介護予防対策を講ずるとともに、大田原赤十字病院の円滑な移転に向けた積極的な支援、新設病院に併設される休日等急患診療所の円滑な開設等、那須郡医師会や地域医療機関等のご協力をいただきながら、一次、二次、三次救急医療体制の整備推進によりまして、市民のさらなる医療と健康づくりの推進のために連携を強化してまいりたいと考えております。



高齢者の健康増進を図るため敬老の日に合わせて開催された幸齢者スクール

※「幸齢」:長く生きるとは幸せなことであるという考え方から、「高齢」ではなく「幸齢」という漢字を採用しました。